



### 年末大掃除 ——すっきり明るくなりました——

瀬戸会館だより  
平成24年1月号  
新居浜市瀬戸会館  
〒792-0821  
新居浜市瀬戸町7-30  
E-mail  
seto@city.niihama.ehime.jp  
TEL 0897-41-5859  
(FAX 兼用)

新年明けましておめでとうございませう。旧年中は本館の活動にご協力ご支援をいただき誠にありがとうございました。今年も皆様のご理解ご協力をいただき、地域に根ざした人権啓発のコミュニティーセンターとして、活動の更なる充実を図るよう職員一同新たな気持ちで努めてまいりたいと思っております。本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。



12月4日(日)、午前9時から恒例の瀬戸会館年末大掃除がはじまった。開始の1時間ほど前から参加者が集まりはじめ、開始時刻には、事前に参加のご連絡いただいた方のほとんど全員が出席されていました。始めるにあたって、瀬戸会館活動連絡協議会会長及び館長のあいさつがあり、続いて清掃場所や役割の分担、手順等々の説明を聞き、早速、全館に散らばって一斉に清掃開始。日頃手の届かない蛍光灯やエアコン、ブラインドや窓枠、ガラス。和室の畳や調理室の流しまわり、そして各部屋の隅々。また、外周の枯れた草花の処理や除草等々。どの方も掃除の大ベテランばかり。約1時間余りの間に見事にきれいになりました。瀬戸会館全体がすっきりとリニューアルされ大変明るくなりました。

片づけの後は、軽いお食事で団らんの時を過ごし12時ころには解散となりました。参加者は、瀬戸会館で活動されている各教室・団体から、また、自治会・子ども会から約60人ものご参加をいただきました。貴重な日曜日を大掃除に割いていただき大変ありがとうございました。

### 第3回新居浜市人権教育啓発講座



12月6日(火)午後7時半より第3回人権教育啓発講座が瀬戸会館で行われました。講師は、本館の香出只三郎指導員です。香出指導員は、指導員となって十有余年、現職になる前の教員時代から人権・同和教育に携わり、蓄積された豊富な経験の中から「改めて見てみると～日本内外の人権状況～」という題での講演が行われました。そのなかでは、皮膚の色の“違い”、言語・宗教・生活習慣の“違い”による差別。そして我が国に今なお残る「“違い”がないのに差別する」日本固有の部落差別の現状等々、多様な事例を示しながら、日本や諸外国に今なお残る不合理な差別について考えさせら

れる貴重な時間をもつことができました。時間の終わりには、新居浜市市民部長から、「私たちが正面から立ち向かうべき部落差別をはじめ様々な人権問題について、一人ひとりの問題として考え、実践につなげるきっかけとして本講座を継続したい、また『あらゆる垣根をこえて、温かい心で交わり合うことのできる新居浜市』の実現に向けてともに歩んでまいりたいと思っております。」との閉講の挨拶がありました。



- 1月の主な行事予定**
- 1月4日・18日(水) - 移動図書館(14:00～14:40)
  - 1月11日(水) - **人権のつどい日(19:30～21:00)**  
講師 新居浜商業高等学校 真鍋康憲さん
  - 1月19日(木) - 小・中学校人権同和主任合同部会
  - 1月20日(金) - 愛媛県隣保館館長研修会
  - 1月24日(火) - 独居高齢者宅訪問(午前中)
  - 1月26日(木) - 組織・企業部会(第3回)市庁舎

# 人権あらかると

## 差別一視座の置き換え

樋口 恵子（評論家）

日頃私が取り組んでいるのは、主として女性問題だが、近ごろは高齢者の問題にも活動のウェイトを置くようになった。他の差別問題と共通することかもしれないが、差別している側は全く悪意がなく無邪気に言っていることが少なくない。高齢者にかかわる分野で言えば、その一つは「呼び方」の問題である。

「お年寄り」ということばは丁寧でいいが、面と向かって「お年寄り」を連発されるとやはりいい気持ちはしないようだ。自分がいったい何と呼ばれるか、名前の呼ばれ方について、1984年につくられたイギリスの「社会福祉施設運営基準」にはこう記されている。「居住者は姓名をはっきりと、または姓のみを、あるいは名のみをと言ったように、その人が自分の望むしかたで自分の名前を呼ばれる権利を有する。」名前の呼び方が権利だなんて、若いころはめったに思わないだろうが、それは若ければきちんと名前を呼ばれることが多いからだろう。年をとったからといって、病院、施設など、明らかに氏名が識別できるところで「お爺ちゃん」「お婆ちゃん」とひとくくりと呼ばれるのは、呼ばれる側からみると差別に違いない。

差別というのは、やはり差別される側が「それは差別だ」ということからしか解決の道は開かれぬのだろう。そして人権意識の進展とともに、かつては差別だと被差別者にも見えなかったものが、はっきりと見えはじめてくる。

差別を自覚するには「置き換え」の方法が有効だと思う。男女の問題だったら、男と女の立場を完全に入れ替えてみる。ミス・コンテストのすべてに反対とは言わないが「あんなものは差別じゃない」という男性は考えてみてほしい。男性がズラリと水着で立ち、ほとんど女性ばかりの審査員が「少し足が太すぎる」「胴長だ」などと品評しつつ、ミスターなんとかに選ばれる身になるとしたら、はたして愉快だろうか。無邪気無意識に行っていることであっても、当事者に指摘されたら、ぜひ置き換えて、考えることから出発してほしい。

『現代の差別を考える 2』（全国同和教育研究協議会）  
都合で一部割愛させていただきました。

### 1月公演 回轉木馬 おはなし会

1月11日予定 10:40~11:00 瀬戸児童館



## 「人権のつどい日」にひろう



12月11日（日）は「新居浜市おもちゃ図書館きしゃポップ」代表の松山明子さんのお話を聞いた。この団体は心身に障がいや、発達に遅れのある子どもたちが地域の一員として生き生きと生活し、広がりのある交流が可能となるよう、総合福祉センターのふれあいプラザを拠点に支援活動をしている。

「とにかく手づくりのおもちゃをつくることから始めよう」とボランティアの皆さんはスタートし、安全に遊べるのが第一で、音が出るよう工夫し、マジックテープ等を使って、ザラザラとかサラサラとかの感触を目や耳の不自由な子どもさんに楽しんでもらうことを心がけたとか。

障がいのある子どもさんの母親が、おもちゃを作ってくれた会員に対して「ヨダレで汚したり、力ずくでこわしたら・・・」と気にしていたが、会員の皆さんから「汚れたら洗ったらいいよ、いたんだらまた作ったらいいんじゃない？」との反応があったと語る。おもちゃは障がい者、保育園、幼稚園、学校、福祉施設に貸し出している。

また、平成13年からは和太鼓に挑戦。いい指導者に恵まれ、今では4曲くらい演奏できるまでになったという。ボランティアの皆さんに牽引される「きしゃポップ」が、さらなる前進ができるよう声援を送りたい。

- 毎週1回－ 親子リトミッククラブ(10:00~12:00)
- 毎月1回－ サークルウォーク2005(10:00~12:00)
- 毎週木曜日－ 囲碁(13:00~16:00)
- 毎週水曜日－ 詩吟(19:00~21:00)
- 毎週月・金曜日－ ピンポン教室(12:30~15:00)
- 毎月2回－ トールペイント教室(9:30~12:30)
- 毎週月・水・金－ 少林寺拳法(19:00~21:00)

### 手芸教室「照」 ～各々のセンスが光る作品の誕生～

月に一度の活動日、大きな荷物をもって瀬戸会館に集う。平成20年夏の「であい展」に展示したパッチワークが評判を呼び、「こんなのが作れたら・・・」の思いが同好の士を呼び、活動をはじめて4年目を迎える。

会員は10名、この冬一番の寒気団が山裾まで白くした12月の活動日、『ホントに寒いねえ』『冷たいねえ』で始まった。定刻には全員が集合、活動開始。自宅で進めた作業のはかどり具合や行き詰まったところなど教えあったり、先生への質問だったりと一段とにぎやかに。そして動き出した、真剣にそれぞれの手が。先生もその対応に大忙し。外の寒気とはまるで別世界の「熱気を帯びた教室」そのもの、あっという間に時間が過ぎて行った。熱中できるうれしさを満面に浮かべ、どこか近寄りたいたいほどの真剣な眼差しで布に向かう姿は「若いエネルギー」さえ感じさせるものでした。とにかく楽しい！